

## 平成 30 年度年報発刊にあたって

ここに、平成 30 年度に当研究所の各研究員が行った検査・監視・調査研究の成果等を取りまとめた京都府保健環境研究所年報第 64 号（2019 年）をお届けいたします。

昭和 54 年に現在の伏見の地に移転してまいりました京都府保健環境研究所も令和元年に築後 40 年目を迎え建物や設備の老朽化が目立ってきたことから、現在の本研究所敷地内で京都市衛生環境研究所と共同整備を行うことが平成 26 年度に決定され、基本構想が策定されました。基本設計、実施設計を経て、平成 29 年 10 月に建設が開始され、令和元年 8 月に、地下 1 階地上 3 階の新研究所が竣工いたしました。同年 9 月から 11 月にかけて移転作業が終了し、12 月 21 日に開設記念式典がとり行われました。今まで、京都府保健環境研究所と京都市衛生環境研究所は、都道府県及び政令市等に設置される地方衛生研究所・環境研究所として、監視・調査研究や検査、これらに付随する研究を通じ、京都府民並びに市民をはじめ、地域住民の皆様方の健康な暮らしを守ってまいりました。加えて、公衆衛生に関する情報の収集及び解析を実施し、関連する他の行政機関への情報提供を行うとともに、保健所や医療機関と共同して地域住民の健康を増進するために貢献してきました。新研究所の開設を機に、京都府保健環境研究所は、京都市衛生環境研究所とより強く連携し、独自性を保ちながらもワンチームとして、試験検査機能の強化や機器の共同利用、共同研究の推進による効率的な運営や、府民公開講座・体験教室をさらに充実させ、感染症や環境汚染などのリスクや脅威に迅速かつ的確に対処するため、新しい技術を取り入れて情報発信を行い、健康増進及び環境保全に関わる予防的かつ戦略的危機管理拠点としての役割を京都市衛生環境研究所とともに一致協力して果たして行きたいと考えております。

昨今、世界的にも自然災害が頻発し、我が国においても台風による甚大な被害が繰り返し起こっております。私たちを取り巻く生活環境や世界情勢が目まぐるしく変動するとともに、自然環境が大きく変化してきているためであると考えられるのではないのでしょうか。本研究所は人々の健康を守るために、水、大気、生活環境、食品等、加えて感染症に対する監視と調査研究を行ってまいりましたが、公衆衛生の観点を踏まえて大所高所から見ることの大切さをより一層認識するとともに、「地域に開かれた研究所」として住民の皆様方の関心と協力を得るためにも、引き続き努力を重ね、緊張感を持ち任務に励んでゆく所存です。

平成 30 年度の年報につきましては、調査研究として京都府におけるインフルエンザ・麻疹及び風疹の感受性に関する研究、その他のウイルスやリケッチア発生動向調査、マルチプレックスリアルタイム PCR によるウイルススクリーニング検査に関する研究、原著論文として高速液体クロマトグラフィー・タンデム質量分析による貝毒分析法に関する研究、PM<sub>2.5</sub> 中に含まれるレボグルコサン濃度に関する研究、リン酸エステル系難燃剤分析法に関して国立環境研究所と共同研究を行った実態調査、さらに、特別寄稿として、長年 PM<sub>2.5</sub> の調査研究に関わってきた研究員による業績のまとめなどが含まれております。ご高覧いただき、ご意見、ご批判をいただければと思います。

今後とも、皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和 2 年 2 月

京都府保健環境研究所 所長 前川 平

